危険な原発から撤退表明し自然エネルギーで町おこし

吉川義雄　議員

吉川　東日本大震災から半年が過ぎ、被災者のみなさんが復興に立ち上がろうとしています。しかし、復興の妨げになっているのが、東京電力福島第一原子力発電所の事故です。放射能から子どもを守りたいとし見慣れた故郷を離れる人も出ています。

原発事故後発行されている関連本

これまで電力会社も国も、原発事故は起きないと「安全神話」を振りまいてきました。今回の福島の事故でこの「安全神話」が完全に崩壊してしまいました。

原発は一度事故が起きると取り返しのつかない過酷事故となり誰も止めることができません。この事故を受けて、蒲島熊本県知事も「原発の立地は認めない」と発言しました。「原発から撤退すべき」と表明する首長が相次いでいます。町長は原発についてどのような認識を持っていますか。また、国に対し、原発から撤退をするように求めてほしいと思います。

原発事故後、自然エネルギー、再生可能なエネルギーの本格導入を求める声が強まっていますが、この自然エネルギーをいかしたまちづくりを行ってほしいと思います。

まず安全が担保原発推進はできない

町長　福島原発の事故で大変な被害が発生しています。私の親戚も福島にいますが、今避難をしている状況です。

エネルギーの安定供給ということで原発が推進されてきたと思っています。また、安全神話が前提にあったと認識しています。

九州内の電力の供給量の41％が原発と聞き及んでいます。やはり安全というものが担保されないと、原子力発電を続けていくことについてはゴーサインを出すわけにはいかないと思っています。

原発をやめてしまって大丈夫かなという不安もありますのでその辺をしっかりと踏まえたうえで、新たな自然エネルギー、再生可能なエネルギーの方向に進んでいくべきだろうと思います。

安全が担保されない限りはこの原発を推進していくことに賛成する気持ちはありません。

住民の生命財産を守るために立神地区の道路整備を

吉川　立神地区内の道路は道幅が狭く、緊急時や災害時に救急車両などの通行に支障がある。また、立神橋が通行不能になれば陸の孤島になる可能性もあります。住民の生命と財産を守るためにも早急に整備を行う必要がある。また、立神地区へは、川上地区や大野地区から入る道路がありますが、どの道路も道幅が狭いうえに、カーブも多く危険なところがいっぱいです。立神地区や大野地区の道路整備計画はどうなっているか。

拡幅が望まれる立神線

必要なところから改良をしていく

町長　当該地区の現状は議員が述べられたとおりです。私も何度か足を運んでいます。本年度氷川町全体を網羅する道路整備の基本計画を今作成中です。その中で、町道の路線内容の見直し、新たな道路の建設構想、基本構想という形でまとめたいと思っています。

立神地区には、大きな町道、一級町道が2本あります。また、川上から立神へ、立神から大野地区へ通る道路など一級町道は5メートルが基準です。そのことを念頭に必要なところから改良を続けていくべきと思います。

防災や災害時等に必要車両が通る道路は確保する必要があると思いますので、基本計画の中でできればと思っています。

※吉川議員は、このほかに次の質問をしました。

①地方自治の二元代表制、町議会基本条例について、町長の認識を問いました。

②町の情報管理について、町民の個人情報が漏えいしていないか、職員の守秘義務について。町はどのような教育をしているか質問しました。

中心市街地基本計画はできた今後の実施計画どうなる

有田芳人　議員

有田　町長の肝いりでかなりの金額を投入して氷川町中心市街地整備計画が策定された。その実施をどのように計画されているのか。

整備基本計画が作成された中心市街地

優先順位の高い順に事業を展開したい

商工観光課長　平成22年度に、氷川町中心市街地再整備基本計画を策定し、4月の議会全員協議会、商工観光振興協議会、町政懇談会で説明をしてきました。さらに、基本計画を基に意見を聞き、計画を詰めていきたいと考えています。

優先性の高いものから事業を展開し、民間業者の参入が可能な施設整備は民間業者の動向を確認しながら、段階的に整備計画策定していく考えです。

第一段階では、安全対策と利便性向上のために、道路整備、駐車場と広場の位置、バス・タクシー乗り場を先行整備。第二段階では、定住人口増加のために住宅整備と周辺の広場整備、第三段階として、にぎわい創出の積極的な展開と商業施設、交流施設の整備を提案しています。その他の計画についても検討を進める必要があると考えています。

有田　この計画は二回目です。氷川町の中心市街地といいながら、真っ暗みたいな感じになっている。このままではどうにもならんので、早めに計画ができるか町長の考えを聞かせて頂きたい。

町長　それぞれの計画につきましては賛否両論ありますが、合併協議の中で中心市街地整備計画を進めていくとなっていますので、今進めているところです。民間の活力を利用し、一つひとつ前に進めているところです。

農産加工センターの利用促進を

有田　農産加工センターの個人、団体の利用状況はどうなっていますか。

農業振興課長　過去3年の利用状況実績は、平成20年169件21年は、204件、22年は177件となっています。加工センターの加工実績は、町づくり振興会で22年度294日利用され、晩白柚、梨、イチゴ等の原料を町内から仕入れ、5万9000個の商品を製造しています。

有田　個人、団体の利用で何が一番多かったか。

農業振興課長　一番多いのは、踊りとか会議での使用です。

有田　農産加工センターは道の駅に聞かなければ利用できないという話だが。

農業振興課長　加工センターは一般に開放されている施設です。申し込みがあれば優先的にあけるように指示しています。

私が知る限り過去にそういうことはありません。加工部門の責任者から随時申請許可を下していますす。

有田　道の駅に聞かないと利用できないとなれば違うと思いますので。

しかし、今後加工センターが赤字にならないようにするために、力を入れておられますので、思い切ってやっていただきますようお願いします。

利活用の促進が求められる農産加工センター